

平成20年度

沖繩県海外留学生修了報告書



財団法人 沖繩県国際交流・人材育成財団

はじめに

海外留学生受入事業は、沖縄県出身移住者の子弟及び歴史的に繋がり深いアジア諸国から優秀な人物を県内の大学で修学させ、日本・沖縄の文化を理解し県民との交流を深めてもらうことにより、本県と移住先国及びアジア諸国等との友好親善の推進に寄与する人材の育成を目的としています。

昭和44年度(1969年)の事業開始以来、本年度を含め542人の留学生を受け入れてきました。留学を修了し帰国した留学生は、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しており、また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成20年度は、北米、南米及びアジアの7カ国1地域から10名を受入れ、そのうち7名が琉球大学、1名が沖縄県立芸術大学、2名が名桜大学において勉学等に励みました。1年間の沖縄滞在を通して、沖縄の歴史や文化等について深く学ぶとともに、お互いの交流を通して友情を育み、ウチナーネットワークを身近なものにすることができたと思います。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

当事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄県立芸術大学、名桜大学、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成21年3月

沖縄県観光商工部長 仲田秀光



平成20年度 沖縄県海外留学生修了式 平成21年3月4日 於：サザンプラザ海邦

安里副知事表敬 平成20年5月15日 於：県庁6階第2特別会議室



川満財団理事長表敬 平成20年5月15日 於：財団理事長室



目 次

○海外移住者子弟留学生(7名)

・ 沖縄～私のもう一つの故郷～	棚原 アリス 美紀	P 1
・ チムグクル	林 レミ ビクトリア	P 6
・ 忘れられない日々	儀保 ダーシー タラ	P11
・ 愛さる美ら島	ピネイロ 上間 エドアルド 明	P15
・ 沖縄での私の人生で最高の年	阿嘉 新川 ディエゴ アウグスト	P21
・ 沖縄に行こう♪	喜久山 仲宗根 明奈	P24
・ 沖縄での体験	根路銘 パウラ スサナ	P27

○アジア諸国等海外留学生(3名)

・ 私と沖縄	林 陳平	P32
・ 人生の友達－沖縄	宋 孫郁	P38
・ うちなーの青い空と私の人生	李 佩佩	P42

平成20年度沖縄県海外留学生名簿



1 海外移住者子弟留学生（琉球大学 4名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	棚原 アリス 美紀 ALICE MIKI TANAHARA	カナダ CANADA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	林 レミ ビクトリア LEMI VICTORIA HAYASHI	アメリカ U.S.A	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	阿嘉 新川 ディエゴ アウグスト DIEGO AUGUSUTO AKA ALAKAWA	ペルー PERU	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	喜久山 仲宗根 明奈 AKINA KIKUYAMA NAKASONE	ボリビア BOLIVIA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生

2 海外移住者子弟留学生（沖縄県立芸術大学 1名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	儀保 ダーシー タラ DARCY TARA GIBO	アメリカ U.S.A	沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 琉球古典音楽コース 科目等履修生

3 海外移住者子弟留学生（名桜大学 2名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	ピネイロ 上間 エド アルド 明 EDUARDO AKIRA PINHEIRO UEMA	ブラジル BRASIL	名桜大学 科目等履修生 (日本語、日本事情等)
	根路銘 パウラ スサ ナ PAULA SUSANA NEROME	アルゼンチン ARGENTINA	名桜大学 科目等履修生 (日本語、日本事情等)

4 アジア諸国等海外留学生（琉球大学 3名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	林 陳平 LIN CHEN PING	中 国 CHINA	琉球大学 共通教育等・法文学部 科目等履修生
	宋 孫郁 SUNG SUN YOU	台 湾 TAIWAN	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	李 佩佩 LEE PEI PEI	台 湾 TAIWAN	琉球大学 共通教育等・大学院人 文社会学科 科目等履修生

沖縄～私のもう一つの故郷～

棚原 アリス 美紀 (カナダ)

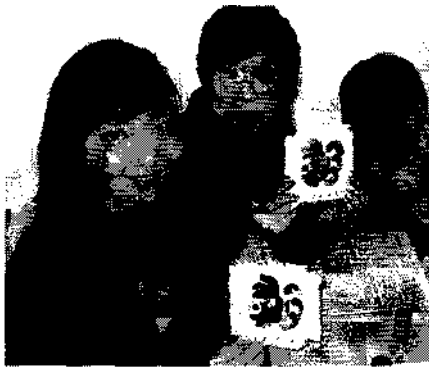
私は、父から県費留学生について話を聞いたりしていたので、ずっと県費留学生として沖縄に行きたいと思っていました。また、仕事もちよっと行き詰った感じがあったので、何か新しいことをやってみたいと思うのと、一度は生まれ育った街から離れてみなければ成長できないとも思っていました。

だから、それらがタイミングよく絡み合って、最初に沖縄に来れた時はうれしいと思うと同時に、不安がいっぱいでした。沖縄に来て、日本語を勉強するのはもちろんだけど、沖縄の文化や日本文化をもっと知りたいと思っていました。



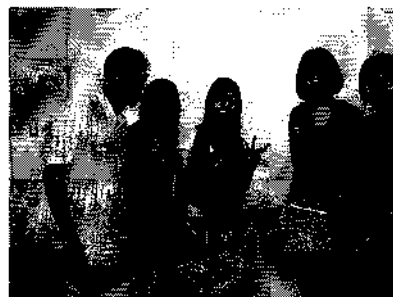
～大学生活～

最初の頃は、あまり友達がいなかったもので、電子辞書が私の友達になりました。特に、漢字の授業は苦手だったので、本当に助かりました。授業では、日本語のほかに漢字や、作文、日本事情や沖縄事情なども勉強しました。中には、絵本を読んだり聞いたりする授業や、ニュースを発表したりする授業もありました。また、授業以外でも、平和通りや保育園、平和祈念公園、ガマなどの見学も行きました。これは、とてもためになってよかったと思います。ほかに、書道、生け花、紅型、ムーチャー作りなども体験させてもらって、いい経験になりました。



その他には、プロジェクトワークとしてクラスのみinnで劇をやりました。自分たちでシナリオを考えて、自分たちで演出してやったので、とてもよかったし、いい思い出になりました。この劇を通して、みんなととても仲良くなれたので、忘れられない出来事になりました。

この大学生活を通して、多くの先生方にお世話になりました。その先生方には、本当にありがとうございますと伝えたいし、感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。



～スピーチ大会、弁論大会～

私の大学生活の最後を締めくくるイベントとして、琉球大学の留学生による日本語スピーチ大会に参加しました。このスピーチ大会のために、多くの時間をかけて練習しましたが、とても大変でした。さらに、外国人による日本語弁論大会にも参加しました。これにむけて、さらに発音や強弱などの練習もこなし、とても大変でした。



だけど、この機会を通して自分の日本語はもっと上達したと思います。また、文章を覚えるということを通して、自分の苦手なところや、発音の問題なども見えてきたので、今後の日本語生活には本当に役に立つと思います。



～学外の活動・ボランティア～

授業で保育園に見学に行きましたが、その経験を通して、同じ保育園で夏休みの期間はボランティアをしました。子供たちの笑顔に触れることは、授業で疲れた私をいやしてくれたので、良かったです。また、私の大好きな子供たちといつも遊んだり歌ったりすることができたので、本当に楽しかったです。



2月には西崎養護学校で交流会があり、それに参加しました。障害のある子供たちは本当にピュアで、楽しい時間をすごすことができました。

～家族・親戚～

沖縄に来たころ、私はホームシックでした。だけど、毎週のように親戚やいとこと会うことで、少しは良くなりました。もし、いとこや親戚がいなかったら、私は本当に大変だったと思います。



私は、沖縄にたくさん親戚がいます。その殆どの親戚と会うために、たくさんの時間を使いました。本当に多くて大変でしたが、私の心の支えになっていたので、本当に助かりました。久しぶりに会う親戚や、かわいい子供たちともたくさんの時間をすごしてきました。みんな、本当に家族のように接してくれて、私は本当に恵まれているんだな、と改めて感じました。



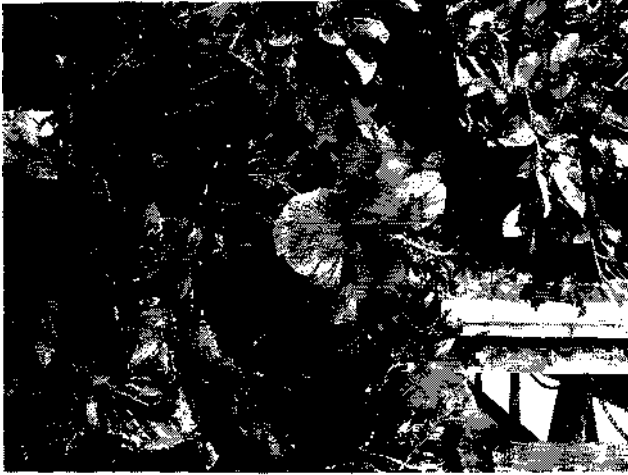
～最後に～

この1年間の留学を通して、たくさんの人たちにお世話になりました。先生方や親戚・いとこのみんな、沖縄県、沖縄県国際交流・人材育成財団の方々、たくさんの友人など、みんな本当によくしてくれたので、感謝しています。私はもうすぐカナダに帰ることになるのですが、この経験は一生忘れないし、かけがえのない思い出になったと思います。それもこれも、周りの支えがあったからだと思うので、ほんとうにありがとうございました。



これから、みんな別々の道を進むんですが、この留学で出会った縁を大事にして、一生の宝物にしていきたいと思います。ありがとうございました。

「チムグクル」



林 レミ ビクトリア (アメリカ合衆国)

ある日、父が私にたずねました。

「もし一年間、学費も生活費も出してもらいながら沖縄に住めるとなったら、レミちゃんは興味ある？」

私は考えなくてもこの質問の答えは口から飛び出しました。

「Of course! ただで一年間住めるの? もちろん、行きたいよ!」

当時、大学院を卒業したばかりの私は就職することに抵抗があり、これからどうしようか迷っていました。大学で一生懸命勉強して教師免許を得た私であったが、カリフォルニアの学校のシステムがまだそれほど良くないという現実を知り、学校で働きたいとは思っていませんでした。地元以外で暮らした経験もなく、自分の知っている世界があまりにも狭くて、飛び出したいと思ってもお金もあまりなかった私には海外で暮らすことは遠い未来のようでした。しかし、両親が始めた沖縄物産展のおかげでサンフランシスコ県人会と出会い、県費留学の存在を知った私は、迷わず応募しました。

二〇〇八年、四月十日、財団の方々と親戚に那覇空港で迎えられ、夢の海外での生活が始まりました。この時までの私が知っていた沖縄は、国際通りから五分、公設市場から十分という、祖母が暮らしていた那覇でした。しかし、私が暮らす琉球大学の寮は、聞いたこともない西原町にあつて、祖母の家からバスで四十分もかかると聞いた私はびっくりしました。親戚は財団の方々の後をついて車でも那覇から三十分かかる距離を運転しながら言いました。

「まあ、私達もここにきたことがないわ。」

少しびっくりしていた私であったが、本当に驚いたときは自分の部屋に入った瞬間でした。床は板でも畳でもなく、冷たいコンクリートでした。机や本棚もありましたが、事務室や学校の教室でよく見かける鉄のものであつて、人が普通に生活する空間とは思えませんでした。夜遅くついた上

に、次の朝は学校のオリエンテーションがあったため、私は親戚の家には行けず、その夜から寮で暮らしました。コンビニで冷やし中華を買い、寂しい、沖縄での最初の夕食をとりました。

この様に、始めの頃、私はたくさんのカルチャーショックを受けました。プライバシーがほとんどない共用のお風呂場には嫌々思いながら行き、母国での家族や友人達に連絡を取ろうと思ってもインターネットが部屋ではつながりませんでした。車やバイクの運転も禁止されていたため、七年ぶりのバスで行動する生活にはすぐにイライラしました。一年の平均気温が二十二、三度になれていた私の体は、沖縄の夏を初めて体験し、汗疹になってしまいました。クーラーの無い沖縄の夏は毎晩寝苦しく、一晩もぐっすり眠ることがありませんでした。

気が付くと、私は不平不満でいっぱいになり、置かれた環境の悪さのせいにして、いろいろなことを中途半端にしていました。せっかく沖縄で出会った新しい友人達や先生方も、私のグチばかり聞かされ、嫌な気持ちになっていました。自分で希望して留学に来たはずなのに、来た途端に不満を口に出す毎日を送っていました。県費留学生として県の留学の担当者の方々には、まずはお礼を伝えなければならなかったと思いますが、感謝の気持ちより自分の要望や希望ばかりを訴え、国にいる家族には「早く帰りたい。」と毎日のように言っていました。

でも、そんな私を救ってくれたのが沖縄の「チムグクル」でした。「チムグクル」とは、沖縄の方言で「人を思いやる気持ち」を表す言葉です。私が気付かないうちに人々に嫌な思いをさせている時にも、厳しく、はっきりと私の欠点を指摘してくれたのは、沖縄で出会った友人や親戚の人達でした。



ある夏の夜、他の県費留学生とおしゃべりをしながら時間を過ごしていました。私はいつものように不満を口に出していました。すると、ある友達が私に言いました。

「レミ、あなた一人で沖縄で暮らしていないだよ。僕達も暑さにうなされ、僕達も共用のお風呂に入っているんだよ。皆もレミと同じように外国から来て、同じように違う環境で生きているんだよ。レミ一人じゃないんだよ。」

この時、私は恥ずかしくてたまりませんでした。二十五歳という大人のはずの私が、子供と同じように、私が世界の中心に立っているような態度をとっていたことに言われるまで気付かなかったのです。でも、友人は私のことを思っていたからこそ、その欠点に気付かせたのです。私はこの時から自分の態度や物の考え方を換えようと努力するようになったのです。

また、親戚にもある時に言われました。

「レミちゃんは財団や県庁の人に留学させてもらって来ているんでしょう？御礼を言う前に要望ばかり言っていると、来年からアメリカの留学生が受け入れられなくなってしまふよ。」

私は感謝の気持ちというものさえ忘れ、自分の事ばかりを考えていました。叔父さんとは血はつながっていないが、叔父さんは私のことを大切な家族の一員と思って、叱ってくれたのです。私はこの様に友人や親戚に欠点を指摘されていなかったら、せっかくの沖縄での生活を嫌な気持ちですごしていたと思います。私のことを思いやってくれるからこそ、厳しいことも遠慮せずに言ってくれたのだと思います。



私は学校や踊りを通して出会った先生や先輩方からチムグクルを学びました。先生と先輩方は私の為にたくさんのことを教えてくれました。



学校の先生方はいつも私達、留学生のために一生懸命でした。初めて汗疹になった私はどうしたら良いのかわからず、とても悩んでいました。担当の先生は私に皮膚科を紹介してくださり、そこに私を連れて行ってくれる人も見つけてくれました。また、スピーチ大会の準備では、朝の九時から夕方六時まで、出場者の指導をしてくださいました。家庭を持つ先生方もいらっしゃるのに、先生方は私達に時間をくれたのです。

このお陰で、私は特別賞や優良賞等、良い成績をとることができました。

私は沖縄に来る前からこれまで、一年半ほど琉球舞踊を習っています。留学をするというこ



とは、師匠とはなれてお稽古ができなくなってしまうはずでした。でも、幸いなことに、沖縄には先輩にあたる兄弟弟子がいました。その先輩は私のために時間を調整して、毎週土曜日の朝の二時間を私のお稽古のための時間にしてくれたのです。先輩は一度も自分の娯楽のためにお稽古を中止した事はありませんでした。先輩の指導のお陰で、私は師匠と離れてもお稽古を続けることができたのです。また、お稽古と一緒に受けている仲間には毎回のようにお夕飯を御馳走していただき、帰りもおもろ町から寮まで送っていただきました。仲間の優しさがあつたから私は夜暗くなってから一人でバスを乗らずにすみ、食事も自分では作れない美味しいものが食べられたのです。

人を包み込む沖縄の温かな気持は、日差しのお陰だけではなく、沖縄文化にチムグクルの精神があるからだと感じています。私はチムグクルの意味と大切さを知ることができ、また、自分も以前にもまして、人への思いやりの心が持てるようになったと思います。



沖縄の穏やかな空気は、人の気持ちを自然に和やかにします。この温かさの元になっているのは、過去から現在、未来へと刻まれているチムグクルであり、そのお陰で私は遠く家族から

離れても、一人じゃないんだと思い、寂しさや苦しさを乗り切れたのだと思います。このように成長できたのは、沖縄に留学できたおかげです。



私を最後まで支えてくださった財団と県庁の方々、学校の先生方、そして親戚や友人の皆様、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。また、私を沖縄に送り出してくれたサンフランシスコ県人会の皆様、素晴らしい経験をさせてくださってありがとうございました。私の留学生生活が幕を閉じますが、私の成長はここで終わりません。

この一年間で学んだことが私の糧として、さらに成長を続けます。これからは沖縄のことを国で紹介し、沖縄との距離をちぢめる架け橋となります。これは、私が沖縄で頂いた数多くの経験の御恩返しだと思います。一人一人名前を言うことはできませんが、私の事を見守ってくださった皆様、本当にありがとうございました。

そして、大好きな沖縄、いっぱいふえーでーびる。



忘れられない日々

儀保 ダーシー タラ (アメリカ合衆国・ハワイ)

「おお、足がしびれてる!!!」

去年4月沖縄に来たばかりのころ、この言葉をよく言いました。沖縄県立芸術大学に琉球芸能(古典音楽)を習いに来るのをとても楽しみにしていましたが、みんな正座で授業を受けるという事を聞いて、それだけはそんなに楽しみじゃないなと思いました。大学だけでなく道場に行っても、また正座でした。これを見て、皆えらいと思いました!最初は正座に慣れなくて、5分しかできませんでしたが、だんだん時間がたつとやっとなんとか正座に慣れました。ですが正座は私にとって一番のカルチャーショックでした。



五年前沖縄に来た時は日本語を覚えることが一番の目的でしたが、今回の沖縄に来た目的は、琉球芸能(特に歌三線)を習うことでした。実際、大学で琉球古典音楽を中心に、さまざまな沖縄の芸能文化を習うことができ、とても楽しい毎日でした。大学では、琉舞、太鼓、笛、胡弓、三線、紅型の着付け、髪結い、琉球史、



琉球芸能史、詞章研究、日本語の授業を受けていました。この一年に琉球芸能学科の学内演奏会が3つ、定期公演が一つあり、全ての演奏会に参加ができて先生方と先輩方に感謝しています。いつも舞台に立つととても緊張しましたが先生方と先輩方のおかげで無事に演奏ができ、とてもいい経験になりました。舞

台に出ることだけではなく、舞台の裏方の仕事も経験ができたので、裏方に対しての仕事も理解することができました。先生方と先輩方が私に舞台の経験をさせてくれたことをとても有り難いことです。先生方から指導を受け、琉球芸能について多くの事を学ぶ事ができ、心から感謝しています。

また、大学へ通いながら、三線の道場にも通っていました。8月に琉球新報主催の第43回琉球古典音楽コンクール三線部門新人賞に挑戦しました。このために3ヶ月間ほぼ毎日遊ばず、稽古場に通いました。この時期には三線のことばかり考えて三線のオタクみたいになっていたかもしれません。毎日忙しかったが、今思い浮かべるといろいろな人と出会えたり、琉球古典音楽についてたくさん習うことができたので本当に挑戦して良かったと思います。また、先生のおかげで舞台の経験もた



くさんありました。沖縄に来て、まさか沖縄の国立劇場で演奏ができて、さらに独唱ができるとは思っていませんでした。あんな立派な舞台にめったにたつことができませんが、先生のおかげでできました。また、伊江島でのチャリティー公演に参加することができました。伊江島にこのような公演はあまり

ないようで、たくさんの伊江島の村民が見に来てくれて、立ち見までもあり、島の人にも喜んでもらえて良かったです。本当に良い思い出になりました。

沖縄に来る前はハワイで週に2回三線の稽古へ行き、稽古以外の時、三線はケースの中に入れてままでした。しかし、沖縄に来てから、大学や道場の先輩達がみんな一生懸命練習をしているのを見て、自分とのレベルの違いに気づかされました。また、色んな舞台も見に行くにつれて、演奏している人たちに憧れ、舞台にたっている方々のように上手になりたいと思うようになりました。これからはハワイの人たちに沖縄で学んだ素晴らしい琉球芸能を広めるために活躍したいと思います。



高校の時に沖縄に初めて来て、初めて親戚に会いました。それまではずっと沖縄に親戚がいる事を知りませんでした。その時に日本語があまり話せなくて、とても残念に思い、もっと日本語が話せたらよかったなと後悔しました。今回日本語で親戚と会話ができるぐらいになったので、いろんな話ができとても嬉しいです。沖縄に来て、親戚がシーミーやお盆や正月等に呼んでくれて、とても嬉しかったです。私が生まれた時には祖父母はもういませんでしたが、親戚が二人の事をいろいろ聞かせてくれたり、二人の古里につれて行ってくれ、祖先のことを教えてくれたりしました。また、親戚と会うたびに昔話を聞いたり、方言を習ったりできるので、親戚に会うのをいつも楽しみにしていました。初めて会う親戚も多かったですが、それだけ親戚が増えて皆ともっと親しくなって本当に嬉しいです。沖縄の親戚



が私を暖かく迎えてくれたので、私も親戚を一人一人大切にしたいと思います。ハワイの家族と沖縄の家族は言葉が通じないかもしれないけど、これからは私が二つの家族の架け橋となり、いつか家族の同窓会ができたらいなと思っています。

今回の留学で自分のルーツや沖縄の芸能、そして世界のウチナーンチュの事を深く学ぶ事ができました。三線の稽古で忙しかったけど、稽古場で先生方や先輩達がいつも手伝ってくれたので、とても安心して稽古場にいる時に皆と一緒に三線を楽しく習うことができ、足が痺れても、やって良かったと思います。大学でも先生方、先輩方も親切でいつも丁寧に教えてくれたので毎日学校に行くのが楽しみでした。また、問題や質問があったとき事務所の方々がよく手伝ってくれて、とても有り難かったです。友達も親戚もいつもあちこちに連れて行ってくれたり、沖縄のことを紹介してくれたりして、沖縄での生活は充実していました。



この一年間本当に毎日楽しくもあり、毎日少しずつ新しい事を見つけました。

この一年に経験した事は全て、沖縄県、沖縄県国際交流・人材育成財団をはじめ、ハワイの県人会、先生方、沖縄県立芸術大学、親戚、家族、友達のおかげだったので心から感謝をしています。沖縄で出会った人達、沖縄で経験したこと、沖縄で習ったこと一生忘れません。また沖縄に来られて本当に良かったです。

県費留学生の中に皆色々な国から来て、本当に「世界のウチナンチュだね！」と



思って皆と交流したり仲良くしたり、ハワイに帰っても、この世界のウチナンチュネットワークを続けるようにみんな沖縄とそれぞれの国の架け橋になって沖縄で学んだことを広めたいと思います。

イッペイニフェーデービタン！



かな ちゅ しま 愛さる美ら島

ピネイロ 上間 エドアルド 明 (ブラジル連邦共和国)

はじめに

「沖縄に行って、もっと沖縄文化と歴史、特にうちなーぐちを学び、自分のルーツを探りたい。」というのは、沖縄への留学に応募するきっかけでした。

ブラジルが、世界の民族が集まった国です。それは、もしかしたらブラジルの最も代表的な特徴だと言います。ポルトガルをはじめ、日本、ドイツ、イタリア、ポーランドなどから色んな人がはるばる南米にあるブラジルに渡りました。うちなーんちゅは、自分のお金を稼ぐ夢だけでなく、自分の魂を持って行きました。ブラジルへ沖縄を持って行きました。

その移民した人の子孫は、そういう魂を受け継いで、チャンプルーの文化の中で育てられ、ブラジル人でありながら、うちなーんちゅでもある強い意識を持つようになりました。

ところが、ルーツに遡ったら、今のうちなーんちゅの子孫は海の彼方を越える歴史を持っていることが分かることができます。したがって、自分のオリジンが分かるために自分の母国の知識だけは足りません。祖先のふるさとの知識も必要になります。

私の場合は、かつての琉球王国である沖縄の子孫ですから、子供のときから沖縄に興味があり、一所懸命その地の文化を学びたいと決意しました。親戚とか、書物とか、インターネットなどから沖縄を学び始めましたが、本から得られない知識を身につけるために、実際に海を渡らないといけないと分かりました。それが、来沖したくなったきっかけです。

沖縄県国際交流・人材育成財団の皆様方をはじめ、沖縄県、ブラジル沖縄県人会の皆様方、また、ブラジル沖縄県人会・ブラジリア支部の皆様方に、ブラジルにいるうちなーんちゅの子孫が沖縄に留学でき、誠にありがとうございますと申し上げたいと思います。

名桜大学

名桜大学は山原にあります。名護市の北部にあつて、私のルーツのふるさとである今帰仁村が近いです。名桜大学を選んだ理由はそれです。山原の生活を体験し、今帰仁村も訪れたいと思って、名桜大学にしました。



名桜大学の入り口で

目的は3つありました。1つ目は沖縄についての勉強をすること、2つ目は自分の国を紹介すること、そして、もっと重要な3つ目は、今沖縄にいるうちなーんちゅの皆さんに沖縄は盛んにアメリカ大陸で生きていることをちゃんと伝えることです。地球の裏ですが、^{ちがくる}肝心は一緒です。



沖縄で三線を弾いている



ブラジルで琉球民謡の披露

^ん「^{じま}生まれ^{くとうばわ}島ぬ言葉忘しーんねえー、^{くに}国^わん忘しゆん」

沖縄のことわざです。「ふるさとの言葉を忘れたら、国も忘れる」という意味があり、言語はある国のアイデンティティを表すものだと思います。今の沖縄の共通語は日本語ですが、元々は琉球語という言葉がありました。日本と併合のときから、だんだんうちなーんちゅが自分の母国語を忘れて行き、日本語が徐々に沖縄の日常会話の共通語になってしまいました。

「島言葉は、沖縄の宝物です。維持だけでなく、復活しないといけない」という考え方をもち、うちなーぐちの勉強を始めました。

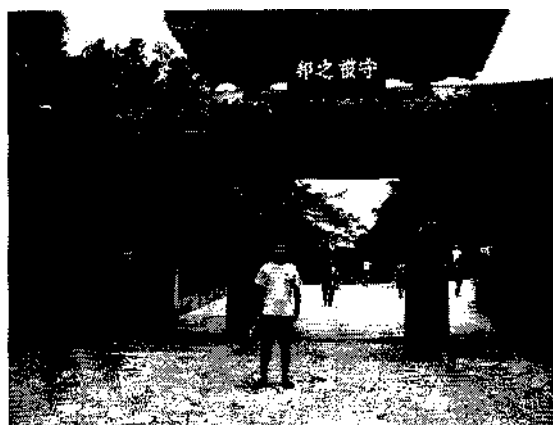


琉球語についての書物

たぶん将来、ブラジルだけでなく、うちなーんちゅのいるところにうちなーぐちを広めて行こうと思っています。



首里城



守礼の門

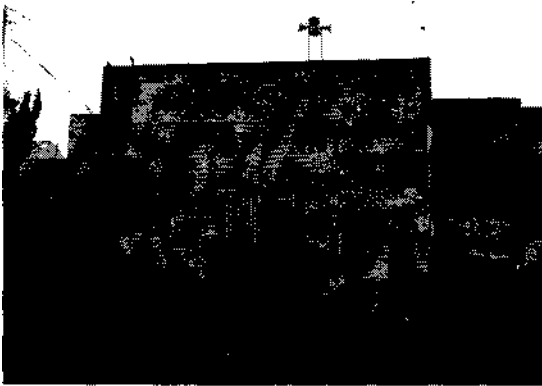
ルーツを探る - 今帰仁村

前述どおり、私のルーツが山原地方の今帰仁村にあります。祖父母は、今帰仁生まれでした。祖母は字今泊出身で、祖父は字平敷出身でした。

2008年に、ブラジル日本移民100周年のことで、今帰仁村長と今帰仁役場の一行がブラジルを訪れ、名桜大学にブラジルからの今帰仁の子孫である県費留学生在っていると分かるようになって、また沖縄に戻った後、「その県費留学生を探さないため」と村長が決意したらしいです。

2008年の10月ぐらい、今帰仁役場から連絡が来て、村長が私と会いたいと言われて、心から嬉しくなりました。「やっと今帰仁で交流する」という考えが頭の中で浮かんでいました。その時から留学の終わりまで、しょっちゅう今帰仁に行ったり、村民といろいろな交流をしたりしたんです。だが、祖母の出身地である今泊を訪れるチャンスはなくて、ちょっと残念だと思っていました。

祖母の出身地を訪れませんでした。祖父の出身地である字平敷によく行きました。そこに、公民館があって、地元の人と交流できました。親戚の同級生、父のまたいとことか、自分の家族に近い人と出会って、心が感動しました。「今帰仁はやはり自分のふるさとだ」と分かって、自分の家族の歴史を学ぶことができました。



平敷公民館の前



平敷公民館 - 今帰仁村長との写真



親戚と一緒に

今帰仁村役場から、新年会で三線を演奏するために招待され、沖縄民謡を披露しました。数週間あと、新聞に載っていました。

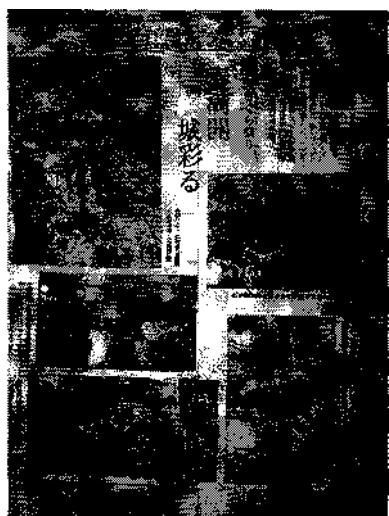


今帰仁村での新年会についての新聞の記事

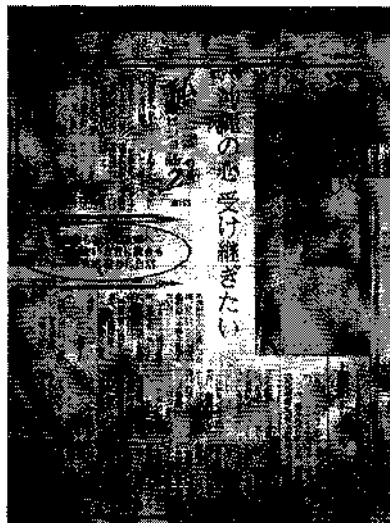
名護桜祭りー二見情話大会

2009年1月の下旬ぐらい、名護桜祭りが開催され、二見情話大会という沖縄民謡の大会がありました。私と名桜大学の教授であるキャロライン・レイサム先生と一緒に、最優秀賞をもらうことになりました。

初めて外国からの方が優勝したため、私たち二人はたくさんほめられていました。



二見情話大会についての記事 - 左側



沖縄タイムス - 私についての記事

いちやりば、ちよーでー

直訳したら、「会えば、兄弟。」という意味になりますが、もっと深い意味を持っている一番代表的な沖縄のことわざだと言います。

自分のルーツを探るだけでなく、各国のうちなーんちゆの子孫と地元のうちなーんちゆと仲良くしました。私たちの国は大分離れていますが、心が一緒だと分かることができました。自分たちのルーツを忘れずに、作った絆を最後まで守り、国にうちなーんちゆとしてのプライドを持ち帰ります。



沖縄、いっぺーにふえーでーびーる！

沖縄での私の人生で最高の年

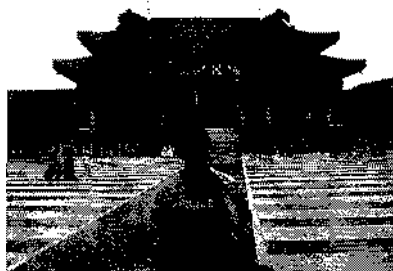
阿嘉 新川 ディエゴ アウグスト (ペルー共和国)

この夢から覚めたくない。

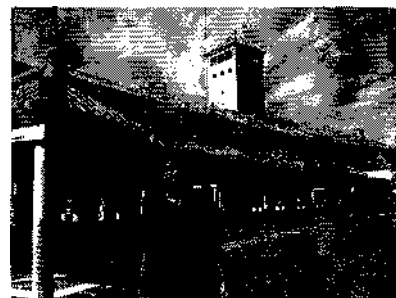
ペルー、2008年3月11日、仕事の最中、あるメールがパソコンに届きました。“ディエゴ、奨学金が認可されたよ～、沖縄に行く準備をしてね”。沖縄に行くことが決まりました。すぐに、お母さんに電話しました。私が今でも印象に残っていることは、お祖母さんの反応です。お祖母さんは泣きながら“おめでとう”と大きな声で言って、私を抱きしめました。その時に私は、これからお祖母さんの故郷に行くということをはっきりと認識しました。しかし、その所はどんな所か全く知りませんでした。

“一石二鳥”。この奨学金を受けたのには、二つの大きな理由があります。まず、私がペルーで翻訳の仕事をしていて、ペルーに帰った時に日本語で翻訳が出来るように、私の日本語能力を上達させる必要があったからです。そして、私は日系三世なので、ずっと前から、いつか沖縄に行きたいと思っていたからです。私のお祖母さんとお祖父さんたちのふるさとを自分の目で見たいと願っていました。

去年の4月15日、沖縄の土を踏んだ瞬間からこの夢が始まりました。その時から、沖縄はこんなに素晴らしい場所と言うことが分かり始めました。暖かい気候で居心地がよく、さらに皆が親切で、まるで、地上の楽園のような気がします。飛行機からこの地に降りた時に、「最高の時間を過ごそう、沢山友達を作って、沖縄の全てを学ぼう」と自分に言ったことを今でも覚えています。



首里城



平和記念公園

沖縄に来るとすぐに授業が始まりました、より深く沖縄の文化や歴史伝統について学んで来ました。授業の雰囲気はとても良くて、面白くて、クラス全体が積極的な感じでした。そして、先生方はとても優しくフレンドリーで、私は本当に恵まれている所にいると感じ

ました。授業の中ですぐに全てのクラスメートと親しくなりました。皆と初めて逢ったのはほんの数か月前なのに、ずっと昔から知っているような気がしました。前期の授業で一番良かったことはクラスメートの皆で「幸せって何？」という劇をしたことです。皆で2ヶ月かけて、話し合っ、ストーリーを考えて、練習をしました。発表した時には最高に盛り上がり皆で感激しました。前期に勉強していた間に見学もしました。クラスの皆で糸満平和祈念公園と沖縄の南部にあるアプチラガマに行きました。そのおかげで沖縄戦のことについて深く学びました。

それから、夏休みが来て、本土へ行って来ました。そこで親戚や友達にあっ、本当に本土で素晴らしい3週間を過ごしました。そして、色んな所に行ったので、日本についてさらに詳しくなりました。

後期の授業が始まる前に、またそれぞれのプログラムから新しい留学生が来ました。皆と交流が出来て、良かったと思います。私の世界はまた広がって行きました。

後期といえば、スピーチ大会です。後期が始まって間もなくすると、先生にスピーチ大会に向けての作文を書くように言われました。大会に成功するために一生懸命作文を書いて、覚えて、先生と一緒に練習をしました。2月に開催されるスピーチ大会に参加して、とても良い経験になりました。そして、授業で習ったことはとても面白くて、本当にいい思い出になりました。私が日本文化で一番興味を持っていることは、漢字です。書道は初めての体験でしたので、楽しみながら、そして緊張しながら筆を持って漢字を書きました。それから紅型や生花、ムーチーの作り方も習いました。後期にもまた見学に行きました。今回は、那覇の公設市場に行きました。ここでは、カラフルな魚や豚の顔が売られていて、とても面白かったです。先生から沖縄の伝統的な食べ物を方言で書かれた紙を配られて、みんなでその食べ物を探しに行きました。「さーたーあんだぎー」とか「ちらがあ」です。そして、組み踊りを見るために国立劇場おきなわに行きました。



紅型



書道

勉強以外に、沖縄の色んな所に行ってきました、例えば、世界遺産である首里城と斎場御獄、そして、美ら海水族館、米軍基地にも入る事が出来ました。ビギンのライブと、2月になって、野球のキャンプに行きました。しかし、沖縄で一番驚いたことは、自分の名字と同じ名前の島があることでした。自分の島に友達と一緒に上陸しました。



阿嘉島



米軍基地

この一年間、沖縄に滞在していた夢のような日々を、一日も無駄にしないように毎日を一生懸命過ごしました。その結果、いろんな国の友達がたくさん出来て、そして、言葉だけではなく、沖縄の文化や伝統も学んで、とても、とても満足しています。この夢から覚めたくないけれど、私はたくさんのもので得てペルーへ帰ります。

沖縄県国際交流・人材育成財団の皆様、沖縄県庁の皆様、琉球大学の先生方、そして、ペルー沖縄県人会の皆様、沖縄で出逢った友達の皆、本当にありがとうございました。心より、感謝しています。

みなさんのおかげで、私にとって、この一年は人生の中で最高の年になりました。



～沖縄名物キンタコ！～



～紅型づくり～



～留学生祭り～

最高の思い出をありがとう！！
GRACIAS PARA TODOS!!!

沖縄での体験

根路銘 パウラ スサナ (アルゼンチン共和国)

「まだ信じられない」、一年間沖縄に居ました。

一年前に私には他の生活がありました。あまりこの島の文化と気持ちは分かりませんでした。私は日系人ですが、家で日本語は話しませんし、日本の文化はあまり分かりませんでした。でもアルゼンチンで卒業した後、日本に興味を持ちました。

「家族の故郷を知りたい、日本語を習いたい」日本に行く事が一番いい方法だと考えました。

沖縄に行きたくなりました。なので、行く方法をずっと探しました。

アルゼンチンにある沖縄アルゼンチンセンターで県費留学生システムを見つけました。いいチャンスだと思いました。

今経験した後、よく分かります。本当に来てよかったと思います。

私が来たときは日本語はあまり出来ませんでした。まだ上手ではありませんけど、少し話せると思います。

私のおばあちゃんは日本語を話します。私は来る前におばあちゃんの言う事があまり分かりませんでした。今は毎月アルゼンチンに電話をします。おばあちゃんと日本語を話します。

これはなによりも嬉しいことです。



又、日本語だけでなくいろいろ学びました。名桜大学で日本語のほかに、日本事情、琉球舞踊、バドミントン、英語の授業に参加しました。又名桜大学のサークルで合気道、生け花、エイサー、パッチワークに参加しました。



色々な活動にも参加をしました。例えば、名桜祭り、名護桜祭り、名護家庭料理フェア、カデナススペシャルオリンピック、盆踊りでエイサーを踊りました。又那覇で日本語弁論大会、留学生パーティー、名護交流会館のクリスマスパーティーでMCをしました。



去年の八月はアルゼンチンで沖縄県人の移民百周年記念式典がありました。そのときに、名護交流会館で、アルゼンチン・ブラジルの移民、文化についての説明をしました。去年はアルゼンチン日系人にとって大切な年でした。アルゼンチンですばらしい祭りがで

きました。皆さんとても感動していました。

又、名桜大学の英語の授業で英語でアルゼンチンの紹介をしました。フォルクローレはアルゼンチンで伝統的な踊りです。何回も名護交流会館で、名桜大学のイベントや、英語と日本語弁論大会でフォルクローレを踊りました。

一番よかったのは、名護交流会館で行われた、「ブラジル、アルゼンチンフェア」で私が教えたフォルクローレをみんなで踊れた事がとても印象的です。

自分の国の踊りを他国の人と踊れた事は、とてもいい経験になりました。



日本の文化もとてもよく学びました。天気の場合だと沖縄は夏になるととても暑いですが、時差は12時間の差があります。食べ物はとてもおいしいです。飲み物は泡盛とオリオンビールがとてもおいしかったです。景色はとても美しいと思いました。それだけではありません。ここの人々はとても親切だと思います。

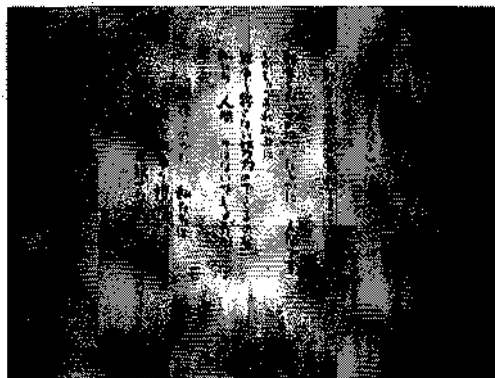
アルゼンチンでは感情表現を常に豊かにしていますが、日本人は相手のことをたてる行動をしていてとても謙虚だと、見ていて感じました。また、アルゼンチンと日本も違うと思いますが、沖縄と内地も違うと思います。

夏休みのとき、3週間内地に旅行をしました。素晴らしかったです。東京、鎌倉、富士山、京都、大阪、神戸、奈良、広島、宮島、長崎、福岡、徳島に行きました。とてもいい経験でした。

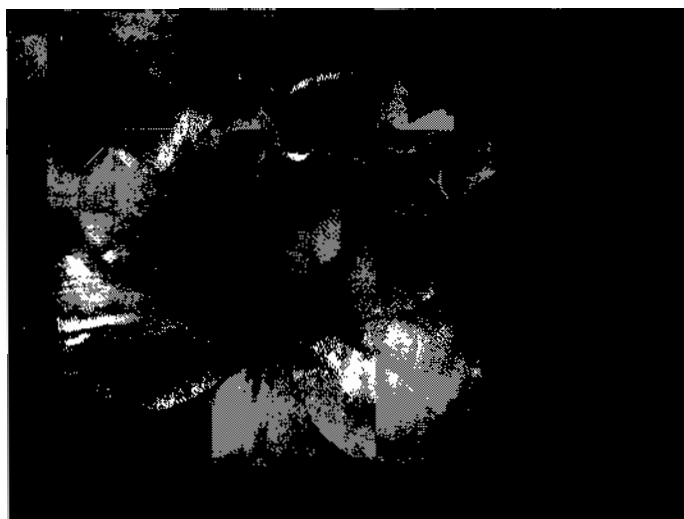


3週間の旅行のあと沖縄に帰ってきて、内地の人々と沖縄の人々はなにか違うと実感しました。内地での3週間はとっても楽しく、日本のさまざまな文化を知ることが出来、新しい発見をしてきました。そのあと、沖縄に帰ると、沖縄と内地の空気が違う事に気がつきました。沖縄の人はよく笑い、ゆっくりした空気や壮大な自然、多くの暖かい人々、沖縄のよさを改めて知ることが出来ました。このような点はアルゼンチンと似ています。

それから、私自身は日本に来たのは初めてです。だから沖縄に来たのも初めてです。ここへ来て、うちなーの親せきと会ったことも初めてです。たくさんの親せきに会いました。とっても身近な存在だと感じました。沖縄で、親せきとであった事によって、多くの”沖縄”を知ることができました。今まで知らなかったこと、たとえば、おばあちゃんの習慣、生活、戦争のこと、多くの文化と歴史を待ったこの島を、今は私の故郷だと思っています。



ずっと1年間沖縄にいたので、今は沖縄に興味があるだけでなく、
"気持ち"があります。



「しまんちゆぬ宝」

今はこの気持ちが分かります。

どうもありがとうございました。

私 と 沖 縄

林 陳平 (中華人民共和国)

2008年4月17日、主人と幼い息子と離れ、私は、憧れの日本留学の夢を抱えて中国福建省から沖縄にやってきた。「烏兔忽々」との言葉がいったように、到着したばかりの不安やホームシックはまだ昨日のことかのように鮮やかに覚えているが、既に「さようなら」を言わなければならない時になり、この貴重な一年間は過ぎ去っていった。

ここに、琉球大学での留学生生活を勉学、交流、体験、生活と四つに分けてまとめていきたいと思う。

一、勉学方面

勉学方面では、前学期は日本語を中心に講義を受け、後学期は日本文学などを中心に講義を受けていた。

前学期の日本語の勉強では、日本語ⅢA、日本語ⅢB、日本語ⅢC、日本語Ⅴ、沖縄事情Ⅰ、日本事情Ⅰといった六つのコースを受けていた。各科目の成績は皆Aで、履修単位合計10単位であった。

留学に来る前に、私は中国で日本語教師として働いていたが、やはり前期のそれらのコースを通して、自分自身の日本語力、及び、日本語教授力を大幅に高めてきたと思う。日本語教師を経験したことから言えば恥ずかしいが、私は、金城先生の講義を通して、漢字を更に真面目に書けるようになり、赤嶺先生の講義のおかげで、似た言葉をよりうまく使い分けられるようになっている。また、日本事情の講義で、日本社会の深層文化がより分かるようになり、沖縄事情の講義で、沖縄の歴史や伝統や現状の認識が空白からだんだん豊富になってきた。日本語力や日本文化、沖縄文化の知識を教わったと同時に、先生たちのそれぞれの真面目な教え方、オリジナルな活発な教授法も教わった。例えば、ケリ先生や東先生の講義中のグループの分け方や、学生間のコミュニケーションのやり方なども、今後日本語教師をやり続ける私にとって、大変貴重な参考になる。

後期、指導教官の許可を得て、私は法文学部の講義を受けるようになった。日本文学概論Ⅱ、日本古典文学講読Ⅱ、日本文学史Ⅱ、日本近現代文学演習Ⅱ、日本史史料講読Ⅱ、日本史概論Ⅱ、日本語史といった七つのコースを修了した。各科目の成績は日本文学概論

ⅡがBである以外、皆Aである。履修単位が14である。そのほかに、教育学部の国文学の講義も聴講した。

文学関係の各コースを通して、私は日本の文学の研究現状が少しずつ分かってきた。しかし、面白く思っているのは、教育学部の国文学の研究手法と法文学部の日本文学の研究手法とはだいぶ違っているところである。国文学のやり方は私の今まで慣れてきた実証的な研究方法であるが、一方、日本文学の研究では、西洋の新しい文学批評理論がたくさん取り入れられている。正直にいうと、私にとって、それらの西洋の理論を理解するのは大変辛いことである。けれども、日本人学生はそれらフーコーの理論や、ジェンダーの理論を使って、日本文学作品を読むのはとても上手に見えて、さすがに日本社会は国際意識が高いなあと思う。文学批評理論はなかなかうまく理解できないが、それらの文学方面のコースや日本歴史などのコースを通して、日本文学に対する認識が深まってきた。

上記のように、前期の日本語中心の勉強と後期の日本文学中心の勉強を通して、私はこの度の留学の最大の目的を達成したと思う。

二、交流方面

せっかく中国福建省の姉妹都市である沖縄に来たので、将来福建省と沖縄県との間の架け橋になればと思っている私は、沖縄をもっと理解するために、大学での沖縄事情などの勉強のほかに、積極的に地元の人たちとの交流活動に参加していた。

財団のお蔭で、私たち県費留学生はいろいろな交流活動に出ることができた。「市民の夕べ」において、留学生を通して市民たちは各国との相互理解を深める意欲が深く、印象に残った。「移民の日」では、中国出身の私はそのイベントとは関係ないように見えるが、招いていただいて、近代百年来の沖縄の移民の歴史がゼロの印象から、まさかこんなに遠くてたくさんの国に移民していたのかのように頭の中に強く刻まれてきた。



財団以外、大学側も積極的に留学生と地元の小中学校との交流活動に励んでいる。そして、私は小禄中学校一年の子供たちと交流した。わずか2時間ぐらいの短

い時間の交流であったが、小禄中学校の子供たちの真面目な勉強ぶりや、各自披露した得意な隠し芸や、それぞれの夢の素晴らしさに、感心した。子供たちの可愛い笑顔によって、自分の幼い時の光景が目の前に浮かんで来て、懐かしく思った。

また、財団や大学のお蔭で参加した各活動のほかに、個人的において、私はよく「長城会」という中国に大変興味を持っている沖縄の方々から成っている団体との交流会に参加した。その交流会に初めて連れて行っていただいたのは、右の写真の新崎先生である。先生は八年ぐらい前に中国で日本語教師として私を教えていた。卒業した後、先生と福建省で会ったこと



が一度あったが、まさか沖縄で再会するとは、夢にも考えなかった。それをきっかけにして、私は沖縄の方々との交流が日常的に私的に見えているが、建前抜きの本音での交流をすることができている。「長城会」は月に一回中国人留学生を招いて交流しているが、お互いに中国のことも、沖縄や日本のことを話し合い、楽しい雰囲気の中で相互理解を進めている。お蔭様で、私も沖縄について更に深く理解することができるようになった。

三、体験方面

留学に来る前に、既に沖縄のことを「青い海」にイメージした私は、沖縄に来たら、やはりその海の青さに感心した。福建省のたくさんの汚れて濁っている海と違い、沖縄の海



は綺麗で、透き通って、海岸線ではぶくぶく茶のような白い波しぶきで、だんだん色が変わり、いろいろな違った青

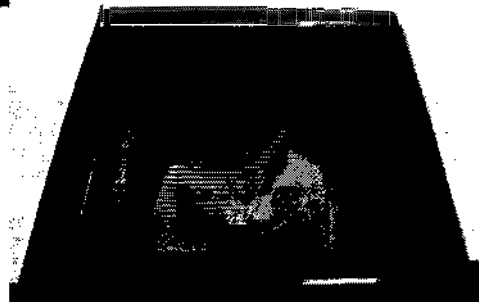
みが広がっていくのである。そんな綺麗で神秘的な海に、是非一度その中に入りたいと思った私は、ようやく夏休みに夢を叶えて体験ダイビングした。初めてのダイビングなので、大変緊張したが、頑張り甲斐があって、私は沖縄の青い海の底を歩き、珊瑚礁をこの手で触れ、彩りの魚たちと一緒に泳ぐことができるようになった。幼いころから福建省の海のそばで育ってきた私は、故郷の海はいつか沖縄の海のように綺麗になればいいなあと、祈っている。現在の中国では、経済発展の理由で、自然環境が破壊される一方である。その点で、沖縄のように、日本のように、もっと自然環境保護に力を入れたら、自然も私たち人間の心を癒してくれるに違いないと思う。



沖縄の海の体験のほかに、私は日本文化にも強く関心を持っていろいろ体験してきた。

知り合いの紹介を通して、私は日本の伝統文化「茶道」のお稽古を始めた。週に一回というペースでお稽古をやっているが、さすがに日本の茶道で、歩き方、袱紗捌き、お軸の拝見の仕方、茶碗

の拝見の仕方、お茶菓子の食べ方、お茶の点て方、道具の飾り方、風き方、等々、それぞれ作法があり、ろまで丁寧にしなないといけない。これらの一々の細かいところから文化の繊細の美、魅力が発見できると思う。



水屋の準備、炉の炭の置細かいところしかし、日本の「茶道」

せっかく日本に来たので、日本の伝統を是非見たいなあと考えた私は、9月の末に奈良や京都などを旅行した。沖縄はまだ真夏でよく晴れていて、とても暑かったが、京都はもう秋の気配で、その日に雨に降られた上に、私は寒々に感じ、結局日本留学一年間で唯一の風邪を引いた。しかし、さすがに「古都」であること。奈良と京都は、所々で日本の伝統の美が見られ、古を偲ばせるようになった。霧雨の中で静寂に立っている洞回りを金箔で張った金閣寺、白砂で築いた枯山水が存在している銀閣寺、青々に綺麗な芝生を鹿がゆったり散歩している奈良公園、





七回挑戦してやっと日本に成功に辿り着いた盲目の鑑真和尚が居た唐招提寺、千年以上を経ても地震に強い五重塔、等々、いずれも日本の素晴らしい文化財であり、現代人の心を引くところである。

四、生活方面

正直に言うと、寮生活は大変きつかった。日本が綺麗な国であり、日本国民が皆綺麗好きであり、特に日本の女性が綺麗好きで世界で一番望まれる女性と言われているが、実際は、女子寮はかなりひどいと思う。玄関のスリッパが散らかったり、シンクに使った食器が置きっ放しにしたり、冷蔵庫を見たら、賞味期限が2007までのものがあつたりして、呆れるほどであると思う。会館に住んでいる留学生のことを羨ましがってたまらない時もあった。

しかし、振り返ってみると、やはり寮に住んでいて良かったと思う。なぜなら、なんといっても、日本人学生との言語の交流や、文化の交流などができるのである。それは正に留学の目標ではないだろうかと思う。寮生活の不便なところを凌ぎながら、私は同じユニットに住んでいる日本人学生と仲良くなった。そして、彼女たちは余儀なく私の日本語の先生になった。例えば、リビングでテレビを一緒に見ている時、分からない言葉が出たら、聞いたら、すぐ教えてもらったり、最近多く出た家族を殺した事件などについて日本人の深層における考えを議論したりして、日本語や日本文化が素早く、マスター、理解することができて、大変嬉しく思う。

夏、お祭りの時、私たちは望みの浴衣を着て下駄を履いて、団扇を扇ぎながら美味しそうな屋台を歩き回るのは、かなり興奮、楽しかった。また、夏が暑くてたまらない沖



縄でも、冬が訪れて寒風がピューピュー吹いた中で、寮でほかほかお鍋を食べるのは楽しいことであった。特に、寮で「闇鍋」というやや気持ち悪くした食事会があつたが、とて

も楽しくて忘れられない。日本人学生なら「闇鍋」はみんな分かると思うが、中国ではそんな遊び方がないので、面白かった。ルールは、美味しい鍋料理を満喫した後、電気を消して、それぞれ自分の入れたいものをお鍋に入れて、混ぜて、また電気を付けて隣に座っている人のお碗に入れて食べさせることである。しかし、みんな変なものを入れて混ぜたので、部屋中変な臭いが広がり、混ぜたものが正体不明でまずくて全然食べられなかった。でも、楽しかった。

結び：

上記勉学、交流、体験、生活といったようにこの一年間の大変貴重な留学生生活をまとめてきた。いろいろな不安もあったが、財団の皆様や、大学の先生方々、寮の友達、そして、沖縄で出会った人々に、心より感謝の意を申し上げたいと思う。別れが新のスタートであるといったように、この一年間の留学生活が終わったが、努力は終わらない。これからも私自身の日本語の勉強、日本文学の研究や、教育現場で学生への日本語の教授や、そして、中日両国の交流、福建と沖縄両省県の交流に、頑張り続けたいと思う。

人生の友達—沖縄

宋 孫郁 (台湾)

『LET'S LOOK AT THE SENTENCE HERE.』これは私が台湾で英語を教えていた際に、よく使ったセリフです。英語がいくら上手に話せても、英語教師の仕事がいくらうまく進んでも、心の中に一つの夢が潜んでいます。大学四年間で日本語を勉強してきた私には、日本に留学することを願っていました。日本に旅行した経験は何回あっても、物足りない気持ちがいっぱいです。慣れてきた英語教師の生活に何か新しいものが訪れたら、人生が変わるかなと常に夜寝る前に自問自答していました。ある日、台湾の新聞紙に載った『沖縄県が奨学金を提供して、台湾で二人を募集しています。』という台湾教育部のお知らせを見て、私の心に希望が湧いてきました。台湾では毎年六十名ぐらいの応募者がいますが、二人しか合格できないのは現状です。この激しい競争は私にとって、手の届かない夢と覚悟しましたが、一度やってみることを決意しました。初めての挑戦で夢が叶えたことは今でも鮮明に覚えています。

沖縄—ありがとう。

飛行機が那覇空港に着陸した瞬間、田舎が大好きな私は何の違和感もなく、逆に親しみを感じました。その後、親切な財団の人たちがいろいろ案内してくれて、心の不安もなんとか取り除けることができました。琉球大学の寮に着いたら、ぼうぼう生えている草を見て少しビックリしました。台湾に戻ったら、ぼうぼうした草を見かけた時に、必ず琉大のキャンパスを思い出すと信じています。このような複雑な気持ちで、沖縄での留學生活が始まりました。



財団の皆様へ 『ありがとう、、、。』

琉大での生活

月曜から金曜までの間は日本語の授業を楽しんでいます。その他に国際政治と観光の授業も聴講しています。日本語の授業の中で最も感謝したのは金城先生の見学授業です。石川酒造場、沖縄県議会、沖縄警察本部、琉球新報社、那覇公設市場、OTVテレビ局、平和記念館、ガマなどの所へ連れてくれたおかげで、一層沖縄のことを深く認識することができて、言葉で表せない貴重な体験でした。小さいクリスマスツリーを作った赤嶺先生の授業は、印象に残る大変いい授業です。石原先生の日本事情という授業で日本と外国の習慣などの差異を分析して、留学生が経験するかもしれないカルチャーショックを勉強しました。広い琉大のキャンパス内で橋がかかっていることは情緒に深い風景になりました。桜も静かに琉大に咲いて、散ってしまいます。数多くの思い出は、沖縄こそが与えてくれました。

沖縄ーありがとう。



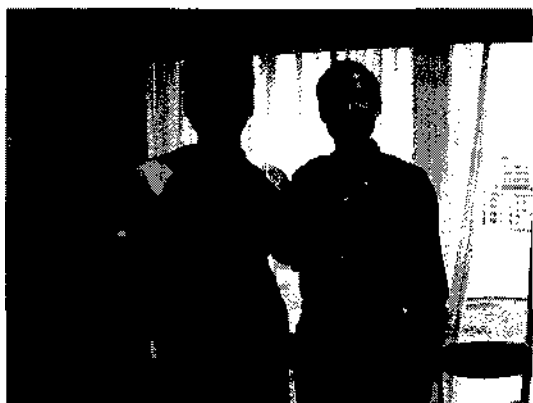
酒造場の泡盛をもらって、ありがとう。アナウンサーの皆様へ Thank you!



ケリー先生へ 劇の指導、ありがとう。 尚美先生へ 永遠の美人日本語教師。

休日の生活

土曜と日曜に沖縄の年間祭りに参加しましたが、特に綱引き祭りで沖縄の力に心が引かれました。私も一本の綱を記念として、持って帰りました。首里城のお祭りで貿易が盛んに行われた琉球王国時代の沖縄を覗くことができました。また、年に二回沖縄にいる台湾人を招いてイベントをする台湾の大使-李大使のお宅でバーベキューや水餃子パーティーで盛り上がっていました。シンガポールの友達もできて、台湾のお正月にみんなが鍋料理をたっぷり味わいました。数え切れない人々との出会い、心に感謝の気持ちで、沖縄-ありがとう。



李大使と大使の奥さんへ 水餃子とバーベキューありがとう!!!



元気な子へ 元気に成長してね。



那覇祭へ 綱一本、感謝一生。

おわりに

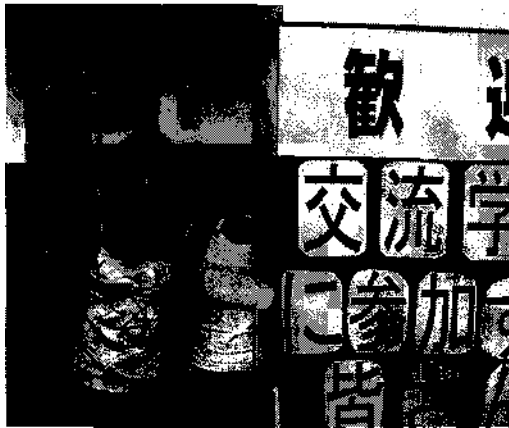
沖縄に滞在した一年という短い期間は私にとって、かけがえのない宝物です。この一年間、私は日本語を上達させるために勉強するというより、沖縄文化を体験しながら、台湾と沖縄の架け橋になるようにいろいろなことを学んで、吸収しています。台湾に戻ったら、英語を教える際に『LET 'S LOOK AT THIS BEAUTIFUL ISLAND-OKINAWA ON THIS MAP.』と沖縄のことを台湾の生徒に紹介したいと思います。
沖縄—ありがとう！

うちなーの青い空と私の人生

李 佩佩 (台湾)

一年前に偶然のチャンスで県費留学生の試験を受けて合格しました。沖縄に来られたのは完全に奇跡だと思います。沖縄に着いた日のことは今でも忘れません。空港から出た瞬間、どこまでも澄みきった吸い込まれそうな青い空が目に入り、この青い空に完全に惚れてしまいました。この一年間は非常に充実していろいろな交流活動、体験活動に参加しました。最初来た頃は小禄中学校の交流活動に参加し、自分の国の文化を生徒達に紹介したり、ゲームをしたりしました。中学校の生徒達はとても元気で、沖縄の素敵な文化を私達留学生に紹介してくれました。交流の経験を通じて、日本の中学生の学校生活を理解することができました。

また、西崎養護学校の交流会にも参加しました。障害のある学生達にどう接して話せばよいのか行く前に少し心配で、うまく交流できるかどうか不安を持っていました。しかし、実際に着いたら、そのような心配は全然なくなりました。養護学校の生徒達はすごくかわいくて、ずっと私と手を繋いでいました。一緒にゲームをしたり、歌を歌ったり、踊ったりしました。生徒達はあまりうまく話せないけれども、実際に言葉がなくても心が通じると感じました。一日交流した後、みんなとすっかり仲良くなり、とても感動しました。この交流活動は非常に有意義でとても貴重な体験でした。



小禄中学校



西崎養護学校

沖縄には世界各国から留学生があつまり、普段琉球大学で勉強している時、他の学校の留学生と交流する機会があまりないので、沖縄地域留学生推進協議会が行われている留学生交流会のお陰で、他の学校の留学生と交流するチャンスがあり、世界各国の踊り、文化を体験でき、異なる文化と言語を越えたコミュニケーションを体感できたのはとても素晴らしいことだと思います。



留学生交流パーティー



留学生交流パーティー

県費留学生 10 人の中で 7 人が日系で、沖縄の血を受け継いでおり、沖縄のルーツを持っています。しかし、私はアジアの県費留学生として沖縄に来ました。来る前は「日系」という言葉が全く分らないが、移民の日の交流会を通じて、地球裏の沖縄、沖縄の移民文化、歴史を深く理解でき、本当によかったと思います。

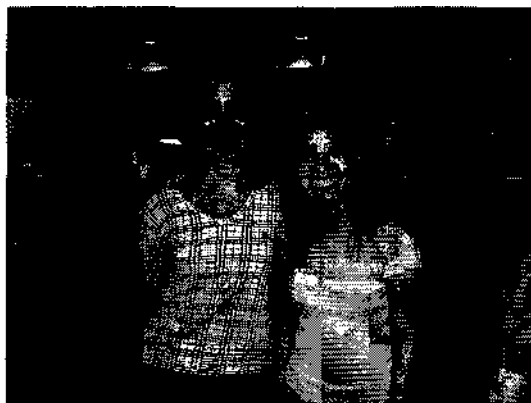


移民の日交流会

地域の活動に参加しているだけではなくて、私も沖縄台湾会の活動に参加しました。沖縄台湾会とは戦前台湾に住んでいた沖縄県民が台湾に感謝するために作ったものです。参加したおじいさん、おばあさん達は子供のころ台湾に住んでいて、台湾語が話せるので、台湾語で話しかけたり、台湾の昔の歴史を聞いたりしながら、沖縄と台湾の交流をより一層深めました。沖縄県台湾会のおじいさん、おばあさん達は私よりも台湾を愛していると実感しました。また、台湾の建国記念パーティーにも参加しました。華僑と交流できて、非常に忘れられない経験になりました。そのほかにも、台北駐日経済文化代表処那覇分処の李処長は毎年二回、留学生を集めて、餃子パーティー、バーベキューパーティーを主催しました。あまりお金がない私たち留学生は感謝の気持ちでいっぱいです。



沖縄県台湾会



バーベキューパーティー



台湾建国記念パーティー

琉大では日本語の授業だけではなく、華道、紅型、茶道など授業もあります。実際に日本文化に触れることができ、沖縄の素晴らしい琉球文化が体験できます。

琉球大学の留学生祭りの時に、エイサーも踊りました。最初うまく踊れなかったけど、練習すれば練習するほどだんだん上手になりました。伝統的な衣装を着て、エイサーの太鼓の音の響きに合わせて踊ったときは、すごく迫力を感じました。



紅型体験



エイサー踊り

沖縄はまるで祭りの王国のようだと言えます。首里祭り、大綱引き祭り、沖縄エイサー祭り、桜祭り、那覇ハーリーなど一年中様々な祭りがああります。お祭りが好きな私にとって、本当に最高です。イベントを通して、多くの地元の人々が交流を広げています。



首里祭り



沖縄エイサー祭り

二月に沖縄県主催の外国人による日本語弁論大会に選抜され、出場しました。その時は毎日一生懸命発音を練習したり、パフォーマンスを練習したりしていました。普段は自分の発音の弱点とかをあまり詳しくわからないけれども、先生のご指導のおかげで、日本語のアクセントがだんだん上手になってきました。今回の弁論大会に参加後、練習の成果もあり、自分の日本語能力が上達した気がします。残念ですが、いい成績をいただけなかったのですが、今回の参加経験は人生において一生忘れない経験になると思います。



この一年間の沖縄での留学生活は非常に充実していて、この青い空の下での思い出は一生忘れません。沖縄で出会った人、経験したことは自分の人生の一生の宝になると思います。財団の方、中琉文化経済協会、台北駐日経済文化代表処那覇分処、大変お世話になりました。この一年間感謝の気持ちを申し上げたいと思います。台湾に帰ったら、沖縄の素晴らしい文化をもっと台湾の人に紹介していきたいと思っています。

平成20年度 沖縄県海外留学生修了報告書

発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒900-0034

沖縄県那覇市東町1-1 那覇東町会館7階

TEL: 098-941-6755

FAX: 098-941-6812

